

サマーセミナーに参加するメリット The benefits of participation in the summer seminar

崎川和起*

Kazuki SAKIKAWA*

1. はじめに

サマーセミナーは、農業農村工学会本大会が開催される際に複数の大学から学生が集まり、農業農村工学に関するテーマの議論や、お互いの研究活動についての情報交換を行う学生主体の企画である。この発端は、1992年に発足したスチューデント委員会や学会事務局等の働きかけにより、他大学の学生同士の交流が活発となり、農業農村工学という同じ学問領域に属する学生同士が議論できる場を求める声が高まったことにある(中桐, 2015)。

本稿では、筆者のサマーセミナー参加の体験談及びセミナーにおける学生交流のメリットについて述べたいと思う。

2. サマーセミナーの体験談

筆者が初めて参加したのは、第17回目の開催となったサマーセミナー2016である。筆者は、サマーセミナーの幹事をしていた同大学の友人の手伝いをする流れで参加した。もともと農業農村工学分野(以下、NN 分野と略す)の研究が好きだったため、当時は何かメリットがあるかということを考えることもなく、ただの興味本位で参加していた。

セミナーは、まず懇親会での顔合わせから始まった。最初に感じたのは、NN 分野の学生がこんなにいるのかということであった。考えれば当たり前のことではあるが、学生時代の交流が自分が所属する学科や研究室の中で完結していたため、無意識に NN 分野に所属する学生が自分たちだけのよう思い込んでいた。この経験は、なんとなく感じていた孤独感や閉塞感を払拭することに繋がったように思う。

グループワークでは、「農業・農村工学の現状・課題・将来についての意識の共有」というテーマで議論した。この企画に参加する学生は、基本的に NN 分野に対して興味をもつ学生が多く、しっかりとした議論を行うことができ非常に楽しかったことを覚えている。大学の授業で同じようなテーマで議論した時と比べても、議論のレベルは大きく異なっていたと思う。セミナーの参加者は、学部生から大学院生、社会人と幅広く、議論の経験が少ない学部生には、経験を得る場として機能し、一定の経験がある大学院生・社会人には、知識や経験の幅があるメンバーの中で、議論の流れを作る経験が得られたと思う。このように、セミナーで得られる経験(メリット)は、個人で異なるといえる。

セミナーの行程の中で、メンバー間の距離を最も縮めることができたのは、宿泊施設で過ごした時間であったと思う。就寝前にメンバー全員がひとつの部屋に集まり、カードゲームなどで親交を深めつつ、研究や進路について語っていた。院生は自分とは異なる分野の学生と研究について議論ができ、学部生はその議論を聞くことで自身の研究に活かせる情報を得ることができる。また、進路についても、学部生は諸先輩方から情報や助言を得ることができる。このように学生らは研究室だけでは得がたい経験や情報を得ることができたと思う。

*(株)三祐コンサルタンツ Sanyu Consultants Inc.

キーワード: サマーセミナー, 若手懇親会

初参加以降、毎年参加することとなり、近年では、オブザーバーとしての参加となった。少々立場は変わったが、今後も参加していきたいと思う。

3. 学生交流のメリット

はじめに述べたように、サマーセミナーは、学生の自主的な企画であるにもかかわらず、これまで四半世紀ほど続けられてきた。これは、このサマーセミナーに参加するメリットが存在するためであると考えられる。ここでは、筆者の体験から感じたメリットについて述べていきたいと思う。

サマーセミナーにおける学生交流は、同世代の学生との交流と異分野の人間との交流の 2 つの面があり、それぞれ異なるメリットが存在すると考えている。

まず、同世代の人間と交流することで、交流の幅を広げることができるというメリットがある。学生時代を振り返ると、研究における交流の幅は、自身の研究室の中で完結していたように思う。特に、NN 分野という大学全体で見ればマイナーな分野では、研究室単位の規模も小さい(筆者が所属していた研究室は、約 10 人ほどであった)。さらに、同じ大学ということもあり、当然実力の近い学生が多く、自分よりすごいと感じる人も少なかったと思う。このような環境では、他の学生と研究について議論する機会も少なく、できたとしてもその議論に深みはでない。また、自身がさらに成長しようとするきっかけも少なくなる。このセミナーでは、研究に対して意欲の高い学生と交流することができる。この交流を通して、自身の研究について議論し、情報交換を行うことで、研究をより高めることができる。また、自身より実力のある学生や研究に対する高い意欲を持つ学生と交流することで刺激を受け、研究に対するモチベーションを高めるだけでなく、自身の将来像や成長について見直すきっかけにもなると思う。

次に、異分野の人間と交流することで、異なる視点や考え方の人間と意見を交わす経験を与えるというメリットがある。なお、ここでの異分野とは、NN 分野が複数の分野の学問を内包していることを前提とし、その中で細分化された分野を示す。これは、筆者が農業土木コンサルタント会社で働くようになってから感じたことである。農業土木における事業の内容は多岐にわたっており、単一の分野の知識や技術だけで完結する事業は、ほぼ存在しない。よって、1 つの事業に対して、複数の分野の技術者が携わることになる(筆者が担当している事業では、地質・水理解析・施設設計という 3 つの分野の技術者が携わっている)。分野が異なるということは、物事に対する視点や考え方、判断する基準が全く違うことを意味しており、自分にとっての常識が通じない状態である。このような異分野の技術者が協力して事業を行うには、視点や考えの異なる情報を処理しつつ、各分野の人間が納得できるように検討する必要がある。これは、1 つの分野だけを学んできた学生にとっては、最初のハードルになると思う。セミナーでは、異分野の学生達と議論することで、異なる考えや視点をもつメンバーと、最終的に 1 つの結論まで導くという経験を得ることができる。このような経験は、非常に重要であるにもかかわらず、研究室内で完結しては、決して得ることができない。この経験は研究者を志す学生にとっても非常に有益であると考えられる。

4. おわりに

ここまで、筆者が感じたサマーセミナーにおける学生交流のメリットを述べてきた。これはあくまで筆者が感じたメリットであり、そのメリットは個人で異なると思う。しかし、最も重要なことは、自分自身で何かを得ようとする姿勢であると思う。今後もこのセミナーが学生らにとって何かを得ることができる場であり続けることを望む。

引用 中桐;学生自主企画サマーセミナーの歴史,平成 27 年度 NN 学会大会講演会要旨集 54-55(2015).